



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月12日

上場会社名 株式会社いなげや 上場取引所 東  
コード番号 8182 URL <https://www.inageya.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 本杉 吉員  
問合せ先責任者（役職名） 専務取締役（氏名） 羽村 一重 (TEL) 042-537-5111  
半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 2024年11月22日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	127,791	△1.1	287	△77.8	274	△80.4	2,463	213.3
2024年3月期中間期	129,199	4.9	1,292	460.5	1,400	307.9	786	638.5

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 565百万円(△50.9%) 2024年3月期中間期 1,152百万円(70.3%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	53.13	—
2024年3月期中間期	16.96	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	88,760	55,052	62.0
2024年3月期	102,320	56,016	53.5

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 55,052百万円 2024年3月期 54,764百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2025年3月期	—	7.50	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

#### 配当の状況に関する注記

(注) ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社を株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換を実施し、所定の手続きを経て2024年11月28日に上場廃止である予定であることから、2025年3月期末の配当予想を記載しておりません。

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年4月18日付で公表いたしました「ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社による株式会社いなげやの子会社化に関する株式交換契約及び経営統合契約締結、これに伴うユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社における子会社の異動、並びに株式会社いなげやにおける親会社及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」のとおり、当社はこの株式交換によりユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社の完全子会社となり、2024年11月28日に当社株式が東京証券取引所を上場廃止となる予定であることから、2025年3月期の通期連結業績予想は記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 一社(社名) 一、除外 1社(社名) 株式会社ウエルパーク
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	52,338,091株	2024年3月期	52,381,447株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	5,947,464株	2024年3月期	6,032,108株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	46,369,185株	2024年3月期中間期	46,348,397株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年4月18日付で公表いたしました「ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社による株式会社いなげやの子会社化に関する株式交換契約及び経営統合契約締結、これに伴うユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社における子会社の異動、並びに株式会社いなげやにおける親会社及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」とおり、当社はこの株式交換によりユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社の完全子会社となり、2024年11月28日に当社株式が東京証券取引所を上場廃止となる予定であることから、2025年3月期の通期連結業績予想は記載しておりません。

(決算補足説明資料の入手について)

決算参考資料につきましてはT D n e tで2024年11月12日(火)に開示し、同日、当社ウェブサイトに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結累計期間	7
中間連結包括利益計算書	8
中間連結累計期間	8
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	9
(企業結合等関係)	10
(重要な後発事象)	11

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善するなか、緩やかな改善傾向にあります。一方、円安やエネルギー価格の上昇が続いており、消費者の生活防衛意識は依然として高い状態が継続し、先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループが属する食品スーパーマーケット業界におきましては、インターネット販売などを中心に消費者の購買行動が多様化するなど、販売を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「まずはお客様ありき」の精神のもと、地域のお役立ち業として安全・安心な食の提供と、豊かな地域社会の実現に寄与すべく事業活動に取り組んでまいりました。

なお、2024年4月18日付の「ウエルシアホールディングス株式会社による株式会社ウエルパークの完全子会社化、株式会社いなげやにおける子会社の異動（株式譲渡）並びに当該子会社からの特別配当の受領及び特別利益の計上に関するお知らせ」にて公表のとおり、(株)ウエルパークはこの株式譲渡に伴い2024年9月より当社の連結子会社から除外しております。

当中間連結会計期間における経営成績は、1品単価の上昇とともに既存店客数が前期比1.2%増と回復したものの、上記(株)ウエルパークが連結子会社から除外されたことから営業収益が1,277億91百万円(前期比1.1%減)の減収となりました。営業総利益は389億77百万円(同1.1%減)、販売費及び一般管理費は水道光熱費の上昇や積極的な改装に伴う経費の増加により386億90百万円(同1.5%増)となりました。

以上の結果、営業利益は2億87百万円(同77.8%減)、経常利益は2億74百万円(同80.4%減)、また、特別利益にしましては政策保有株式の縮減及び見直しにより投資有価証券売却益27億42百万円、子会社株式の譲渡に伴う関係会社株式売却益15億60百万円を計上する一方で、特別損失にしましては店舗閉鎖損失引当金繰入額5億53百万円などを計上したことにより親会社株主に帰属する中間純利益は24億63百万円(同213.3%増)となりました。

当社グループにおけるセグメントごとの状況は次のとおりです。

#### [スーパーマーケット事業]

当社は、“新鮮さをお安く心をこめて”を経営目標とし、価値ある商品の開発、お値打ち価格での商品提供、お客様の立場に立った「お買い場」づくりを行い、お客様の来店頻度を高めることをテーマとして施策を推進してまいりました。

商品面では、競合他社との差別化のため、生鮮、惣菜、インスタアベーカーの強化を図りました。2024年4月には日本唐揚協会主催「第15回からあげグランプリ®」の東日本スーパー惣菜部門で金賞を受賞しました。そして、鮮魚コーナーでは、新鮮なネタにこだわった「鮮魚鮭」の展開店舗を拡大し、お客様に魅力を感じていただける、「こだわり商品」を提供してまいりました。そして、イオングループのプライベートブランドである「トップバリュ」の拡大を進め、「価値」と「価格」の消費者の二極化への対応を行ってまいりました。

販売促進といたしましては、来店動機となるコモディティ商品の曜日セールを実施するとともに、会員のお客様への対応としてポイント施策の強化を行いました。さらにチラシだけでなく、デジタルコンテンツを活用したお客様との接点の拡大を図ってまいりました。

生活様式の変化への対応といたしまして、ネットスーパーの展開をしております。さらには、ラストワンマイル(お客様からのご注文からお届けまで)への対応として、クイックコマースへの取り組みを強化しております。

地域のお客様のお困りごとの解消といたしましては、移動スーパー「とくし丸」のエリアの拡大を行い、配車台数は9月末時点で27台と順調に配車台数を増やしております。

お客様のレジ待ちストレス軽減および多様化した決済手段への対応、そして、労働不足の解消を目的とした、セミセルフレジ、セルフレジの導入を全店導入しております。

DXの推進として電子棚札を活用した、ドライ商品の賞味期限の日付チェックシステムを順次導入し、お客様への安全安心への対応とともに生産性向上を進めてまいります。

設備投資といたしましては、既存店の活性化を引き続き推進し、武蔵村山残堀店(東京都武蔵村山市)、ina21相模原下九沢店(相模原市緑区)など9店舗の改装を実施いたしました。一方で2店舗を閉鎖し、当中間連結会計期間末における店舗数は、128店舗となっております。

以上の結果、既存店売上高は前期比5.1%増となり、当中間連結会計期間のセグメント別売上高(外部顧客)は1,020億83百万円(前期比1.6%増)、セグメント損失は40百万円(前年中間期は7億55百万円のセグメント利益)となりました。

#### [ドラッグストア事業]

(株)ウェルパークにおいては、「チェーンストア経営深化による成長力・収益力の拡大」を基本方針として、自動発注の精度向上やそのデータをもとに売れ筋商品の発掘、またグループ内においてPB商品の販売拡大や共同仕入れなどグループシナジー効果による収益力向上により、チェーンストア経営のメリットを最大限に引き出し、個店の魅力を高め顧客満足度向上の実現を目指して営業活動を行ってまいりました。

設備投資といたしましては、板橋相生店(東京都板橋区)、東矢口店(東京都大田区)、調剤薬局飯田橋駅前店(東京都千代田区)など5店舗を新設し、既存店の活性化のため、府中街道中野島店(川崎市多摩区)など2店舗の改装を実施いたしました。当中間連結会計期間末(連結除外前)の店舗数は、145店舗となっております。

以上の結果、当中間連結会計期間のセグメント別売上高(外部顧客)は200億72百万円(前期比12.9%減)、セグメント利益は1億31百万円(同67.5%減)となりました。

なお、2024年4月18日付の「ウエルシアホールディングス株式会社による株式会社ウェルパークの完全子会社化、株式会社いなげやにおける子会社の異動(株式譲渡)並びに当該子会社からの特別配当の受領及び特別利益の計上に関するお知らせ」にて公表のとおり、(株)ウェルパークはこの株式譲渡に伴い2024年9月より当社の連結子会社から除外しております。

#### [小売支援事業]

デイリー食品卸しと惣菜製造を行っている(株)サンフードジャパンは、安全・安心でおいしい価値ある商品の提供に取り組んでおります。惣菜製造事業においては、(株)いなげやと連携した独自商品の開発、内製化等、グループ内の同事業強化のバックアップに注力してまいりました。

商業施設を中心に建物施設の企画、設計や警備、清掃等を行っている(株)サビアコーポレーションは、いなげやグループが地域のお役立ち業として企業価値を高めるために、店舗の企画段階から検討を行い開発および管理におけるコスト削減やリスク低減に取り組んでおります。また、これらグループ内事業で積みあげた安全・安心で快適な各種機能・サービスを一般のお客様に提供することも行ってまいりました。

障がい者雇用の推進を目的とした特例子会社(株)いなげやウィングは、従業員の能力開発や自立支援、グループ各社に向け障がい者雇用の支援に取り組んでおります。また、障がい者の職場での定着支援活動などを行うことによりグループ会社全体に障がい者への理解を深めていく役割も担っております。

露地栽培・水耕栽培等、農業経営を行う(株)いなげやドリームファームは、「安全」「安心」「おいしい」で健康と笑顔の創造を目指し品質向上や地産地消の推進に取り組んでおります。また、(株)いなげやの青果担当者に対する学びの場として農業研修を実施する等、グループ内の人財育成の役割も担っております。

以上の結果、当中間連結会計期間のセグメント別売上高(外部顧客)は2億69百万円(前期比27.5%増)、セグメント利益は2億3百万円(同68.0%増)となりました。

当社グループにおける環境、地域貢献活動の状況は次のとおりです。

いなげやグループは、地域のお客様に安全・安心な食を中心とした日常を提供するお役立ち業として、社是・経営理念・グループビジョンに基づき「サステナビリティ方針」を策定し、持続可能(サステナブル)な経営の推進に取り組んでおります。

環境活動への取り組みといたしましては、脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラルを目指し、省エネ機器の導入や太陽光発電設備の設置拡大などに、また循環型社会の実現に向けて「食品ロス削減」や「食品リサイクル」、「ペットボトルリサイクル(ボトルtoボトル)」に継続的に取り組んでまいります。

社会貢献活動では、障がい者雇用の促進(株)いなげやウィング)や地産地消の促進(株)いなげやドリームファーム)、実店舗への買い物が困難なお客様への対応(移動スーパー「とくし丸」)、店舗での募金活動(盲導犬育成支援)など様々な取り組みを行ってまいりました。

また、当社グループの「健康経営宣言」に基づく健康経営の取り組みが評価され、今年度も経済産業省と日本健



康会議が共同で認定する制度「健康経営優良法人2024」に認定されました。  
今後も地域とのつながりを大切に健全な社会の実現に貢献してまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産の部)

当中間連結会計期間末における資産合計は、㈱ウェルパークの株式を譲渡した影響もあり、前連結会計年度末と比べ135億60百万円減少し、887億60百万円になりました。

流動資産は、58億89百万円減少し、382億30百万円になりました。これは主に、商品及び製品が57億56百万円、有価証券が56億円、売掛金が37億84百万円、流動資産のその他(未収入金など)が17億20百万円それぞれ減少した一方で、関係会社預け金が110億円増加したことによるものです。

固定資産は、76億65百万円減少し、504億87百万円になりました。これは主に、投資その他の資産が65億66百万円、有形固定資産が10億41百万円、無形固定資産が56百万円それぞれ減少したことによるものです。

繰延資産は、5百万円減少し、42百万円になりました。これは社債発行費の償却によるものです。

### (負債の部)

当中間連結会計期間末における負債合計は、㈱ウェルパークの株式を譲渡した影響もあり、前連結会計年度末と比べ125億96百万円減少し、337億8百万円になりました。

流動負債は、94億56百万円減少し、250億33百万円になりました。これは主に、買掛金が74億47百万円(電子記録債務を含め74億12百万円)、流動負債のその他(未払金など)が19億22百万円、賞与引当金が8億15百万円、契約負債が7億70百万円それぞれ減少した一方で、未払法人税等が15億8百万円増加したことによるものです。

固定負債は、31億39百万円減少し、86億74百万円になりました。これは主に、繰延税金負債が12億26百万円、資産除去債務が6億94百万円、長期借入金が5億34百万円、リース債務が3億86百万円、社債が2億61百万円それぞれ減少したことによるものです。

### (純資産の部)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ9億63百万円減少し、550億52百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が17億72百万円、非支配株主持分が12億51百万円それぞれ減少した一方で、利益剰余金が21億15百万円増加したことによるものです。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ8.5ポイント上がり、62.0%になりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月18日付で公表いたしました「ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社による株式会社いなげやの子会社化に関する株式交換契約及び経営統合契約締結、これに伴うユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社における子会社の異動、並びに株式会社いなげやにおける親会社及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」のとおり、当社はこの株式交換によりユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社の完全子会社となり、2024年11月28日に当社株式が東京証券取引所を上場廃止となる予定であることから、2025年3月期の通期連結業績予想は記載しておりません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,482	6,429
売掛金	9,518	5,734
有価証券	8,600	3,000
商品及び製品	9,990	4,233
仕掛品	7	15
原材料及び貯蔵品	177	193
関係会社預け金	5,000	16,000
その他	4,344	2,623
流動資産合計	44,119	38,230
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,266	11,307
土地	16,455	16,455
リース資産(純額)	1,160	915
建設仮勘定	263	231
その他(純額)	3,264	3,459
有形固定資産合計	33,410	32,369
無形固定資産	1,871	1,814
投資その他の資産		
投資有価証券	10,273	6,266
長期貸付金	10	8
繰延税金資産	945	316
退職給付に係る資産	1,747	1,630
差入保証金	9,378	7,650
その他	532	430
貸倒引当金	△16	—
投資その他の資産合計	22,870	16,303
固定資産合計	58,152	50,487
繰延資産		
社債発行費	48	42
繰延資産合計	48	42
資産合計	102,320	88,760

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,332	11,885
電子記録債務	233	268
1年内償還予定の社債	523	523
1年内返済予定の長期借入金	1,548	1,208
リース債務	450	383
未払法人税等	802	2,310
未払消費税等	409	325
賞与引当金	2,114	1,299
役員賞与引当金	18	—
店舗閉鎖損失引当金	—	553
ポイント引当金	96	65
契約負債	2,524	1,753
資産除去債務	154	98
その他	6,280	4,357
流動負債合計	34,490	25,033
固定負債		
社債	1,689	1,427
長期借入金	2,214	1,680
リース債務	1,077	690
繰延税金負債	1,274	48
株式給付引当金	19	—
役員株式給付引当金	39	—
退職給付に係る負債	656	678
資産除去債務	3,793	3,098
その他	1,049	1,051
固定負債合計	11,814	8,674
負債合計	46,304	33,708
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,981	8,981
資本剰余金	13,598	13,598
利益剰余金	32,750	34,799
自己株式	△6,263	△6,124
株主資本合計	49,066	51,254
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,076	3,304
退職給付に係る調整累計額	620	493
その他の包括利益累計額合計	5,697	3,797
非支配株主持分	1,251	—
純資産合計	56,016	55,052
負債純資産合計	102,320	88,760



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業収益	129,199	127,791
売上高	123,762	122,425
売上原価	89,785	88,813
売上総利益	33,977	33,611
営業収入	5,436	5,366
営業総利益	39,413	38,977
販売費及び一般管理費	38,120	38,690
営業利益	1,292	287
営業外収益		
受取利息	12	21
受取配当金	86	113
受取手数料	53	52
その他	29	15
営業外収益合計	181	203
営業外費用		
支払利息	31	21
社債発行費償却	5	5
支払手数料	15	186
貸倒引当金繰入額	16	—
その他	5	1
営業外費用合計	74	215
経常利益	1,400	274
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2,742
関係会社株式売却益	—	1,560
特別利益合計	—	4,303
特別損失		
固定資産処分損	4	49
減損損失	84	314
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	553
その他	0	55
特別損失合計	89	973
税金等調整前中間純利益	1,311	3,605
法人税、住民税及び事業税	321	1,974
法人税等調整額	161	△836
法人税等合計	483	1,138
中間純利益	827	2,466
非支配株主に帰属する中間純利益	41	3
親会社株主に帰属する中間純利益	786	2,463

## 中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	827	2,466
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	383	△1,772
退職給付に係る調整額	△59	△128
その他の包括利益合計	324	△1,900
中間包括利益	1,152	565
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,111	563
非支配株主に係る中間包括利益	40	2

## (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に関する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパーマー ケット事業	ドラッグ ストア事業	小売支援事業			
売上高						
外部顧客への売上高	100,515	23,035	211	123,762	—	123,762
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1	—	4,604	4,606	△4,606	—
計	100,517	23,035	4,816	128,368	△4,606	123,762
セグメント利益	755	403	120	1,280	12	1,292

(注) 1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパーマー ケット事業	ドラッグ ストア事業	小売支援事業			
売上高						
外部顧客への売上高	102,083	20,072	269	122,425	—	122,425
セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	—	5,173	5,174	△5,174	—
計	102,084	20,072	5,442	127,599	△5,174	122,425
セグメント利益又は損失(△)	△40	131	203	293	△6	287

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

事業分離

## (1) 事業分離の概要

## ① 分離先企業の名称

ウエルシアホールディングス株式会社

## ② 分離した事業の内容

当社のドラッグストア事業

## ③ 企業結合を行った理由

これまでのドラッグストア業界は、健康需要の高まり、取扱商品の拡大、意欲的な出店等を背景に市場規模を順調に拡大させてきました。一方で、物価高に伴う消費者の節約志向の高まり、人件費・物流費の高騰など事業環境の変化に直面しております。また、国内では、新規出店余地が減少し、業界の成長は成熟ステージを迎え、再編の機運が高まっております。

当社は、共通の親会社を持つウエルシアホールディングス株式会社（以下「ウエルシア」といい、子会社及び関連会社を含めて「ウエルシアグループ」といいます。）へ、株式会社ウエルパーク（以下「ウエルパーク」といいます。）の株式を譲渡しウエルシアの完全子会社とすることにより、少子高齢化社会においても人口増加が続く首都圏で強固な経営基盤を有するウエルパークがウエルシアグループに参加することで、ウエルシアのマザーマーケットにおけるドミナント化を一段と強化することができ、物流や販促の最適化などを通じて事業の運営効率の向上、また、ウエルパークにおいては、調剤併設の推進、ウエルシアのプライベートブランド商品の導入、調達・販促等の共同化で集客力や収益力を向上できると判断し、事業分離を実施するに至りました。

## ④ 事業譲渡日

2024年9月2日(みなし株式譲渡日 2024年8月31日)

## ⑤ 法的形式を含むその他の取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

## (2) 実施した会計処理の概要

## ① 移転損益の金額

関係会社株式売却益	1,560百万円
-----------	----------

## ② 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内容

流動資産	12,613百万円
固定資産	4,856百万円
資産合計	<u>17,469百万円</u>
流動負債	10,096百万円
固定負債	980百万円
負債合計	<u>11,076百万円</u>

## ③ 会計処理

当該譲渡株式の売却価額と連結上の帳簿価額との差額を「関係会社株式売却益」として特別利益に計上しております。

## (3) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

ドラッグストア事業

## (4) 中間連結会計期間に係る中間連結損益計算書に計上されている子会社に係る損益の概算額

売上高	20,072百万円
営業利益	131百万円

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。